

緊急声明

セクハラ疑惑への政府・財務省の対応に強く抗議し、福田淳一事務次官の罷免、麻生財務大臣の辞任を求めます

2018年4月19日

日本婦人団体連合会

会長 柴田真佐子

複数の女性に対するセクハラ行為が報道された財務省福田淳一事務次官が多くの批判を受けて辞任を表明しましたが、セクハラの実実は否定し、「女性が接客する店で『言葉遊び』を楽しむ」などという女性蔑視発言への反省もありません。辞任は当然ですが、辞任による幕引きは許されず、セクハラへの反省もない次官は罷免すべきです。

また、セクハラ事件の対応には被害者の人権保護が最重要であるにもかかわらず、財務省が被害者に自ら名乗り出るよう求めているのは、セクハラ被害の本質を全く理解していない対応であり、強く抗議するとともに撤回を求めます。さらに、麻生財務大臣が「名乗り出がなければセクハラの実質を認めない」と表明しているのは、財務省によるセクハラ事実の隠ぺいと言わざるを得ません。次官を擁護してきた財務省の対応は許されるものではなく、麻生大臣の辞任は当然であるとともに、こうした対応を容認してきた安倍政権の責任が問われる問題です。

日本ではまだセクハラを許容する風潮が強く、被害者が泣き寝入りせざるを得ない実情がありますが、世界では“#Me Too”運動が各地に広がっています。「女性に対する暴力根絶」を掲げる日本政府はセクハラ一掃の先頭に立たなくてはならないにもかかわらず、今回の対応は、世界の流れから見ても政府の本来の立場から見ても異常なものであり、多くの女性・国民、野党はもちろん与党の中からも批判の声があがっています。

私たちは、すべての女性が安心して生活し働ける社会の実現のため、今回のセクハラ疑惑への政府・財務省の対応に強く抗議し、福田淳一事務次官の罷免、麻生財務大臣の辞任を強く求めます。